

# ジャーナリズム論Ⅱ

科目ナンバリング SOC-108  
選択 2単位

阪本 博志

## 1. 授業の概要(ねらい)

「ジャーナリズム論Ⅰ」に続き、戦後の雑誌ジャーナリズムを、その時代の社会的背景とともに理解・把握する。  
雑誌は、とくに総合雑誌と大衆娯楽雑誌、週刊誌をとりあげる。週刊誌においては、重要な論考である加藤秀俊「中間文化論」(『中央公論』1957年3月号)を読むとともに、高度成長期における重要な文化人である、大宅壮一(1900～1970)と松本清張(1909～1992)の活動を学ぶ。  
「ジャーナリズム論Ⅱ」受講希望者は、「ジャーナリズム論Ⅰ」の履修が望ましい。

## 2. 授業の到達目標

戦後の雑誌ジャーナリズムについて、社会的背景との関係とともに理解する。

## 3. 成績評価の方法および基準

提出物 40%  
期末試験 60%

## 4. 教科書・参考文献

教科書

加藤秀俊 「中間文化論」(初出は『中央公論』1957年3月号) 「加藤秀俊データベース」掲載のものを印刷・配布する。

参考文献

奥武則 『増補 論壇の戦後史』 平凡社ライブラリー

阪本博志 『『平凡』の時代——1950年代の大衆娯楽雑誌と若者たち』 昭和堂

阪本博志 『大宅壮一の「戦後」』 人文書院

藤井淑禎 『清張 闘う作家——「文学」を超えて』 ミネルヴァ書房

## 5. 準備学修の内容

授業中に指定するテキストの範囲を読んでおくこと。また授業中に実施する「確認プリント」(詳細は、1回目の授業で説明する)に向けての準備をすること。

## 6. その他履修上の注意事項

- ①受講者には、毎回リアクションペーパーへの記入を求める。そこにあらわれた受講者の興味関心等によって、内容の調整をすることがある。
- ②成績評価の方法および基準は、対面授業を想定してのものである。遠隔授業になった場合、比率を変えることがある。そのときには決め次第、授業中に告知する。
- ③「ジャーナリズム論Ⅱ」受講希望者は、「ジャーナリズム論Ⅰ」の履修が望ましい。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 1950年代～1960年代の総合雑誌と大衆娯楽雑誌(1)
- 【第3回】 1950年代～1960年代の総合雑誌と大衆娯楽雑誌(2)
- 【第4回】 1950年代～1960年代の総合雑誌と大衆娯楽雑誌(3)
- 【第5回】 加藤秀俊「中間文化論」(『中央公論』1957年3月号)を読む(1)
- 【第6回】 加藤秀俊「中間文化論」(『中央公論』1957年3月号)を読む(2)
- 【第7回】 加藤秀俊「中間文化論」(『中央公論』1957年3月号)を読む(3)
- 【第8回】 大宅壮一(1) 1920年代～1930年代にかけての活動
- 【第9回】 大宅壮一(2) 戦中の活動
- 【第10回】 大宅壮一(3) 占領期から1950年代にかけての活動
- 【第11回】 大宅壮一(4) 1950年代～1960年代にかけての活動
- 【第12回】 松本清張(1) そのライフヒストリーと『週刊朝日』でのデビュー
- 【第13回】 松本清張(2) 推理小説ブームと光文社「カッパブックス」
- 【第14回】 松本清張(3) 「中間文化」の拡大とその活動の展開
- 【第15回】 これまでのまとめ